



創立125周年

1885 - 2010

# 群像 創立者18人はこんな人



白虎隊出身の創立者



にし かわ てつ し ろう  
**西川 鉄 次 郎**

1853(嘉永6)～1932(昭和7)／会津若松  
西川鉄次郎が数え年で16歳を迎えた1868年に戊辰戦争が起こった。1年半に及んだこの内乱で、最も激戦だったのが会津戦争だった。7月から9月にかけて官軍と激突した会津陣の中で、西川は白虎隊奇合組2番隊士として出陣。  
70年、西川は斗南藩(旧会津藩)から静岡藩に留学。翌年南校に入学、開成学校を経て苦勞の末に78年東京大学法学部を卒業。86年の東京始審裁判所判事を皮切りに、各地で裁判官を勤めあげ、当時全国に7つしかなかった控訴院のうち函館と長崎の控訴院長にまで栄進。敗者側である西川の院長就任は、明治という時代にあっては、じつに破格の立身出世であった。  
98年から1902年にかけての大審院判事時代、本学が請け負っていた大審院判決録の編纂に多大の貢献。



イギリス法教育の伝道者



ひじ かた やすし  
**土 方 寧**

1859(安政6)～1939(昭和14)／高知・佐川  
1878年、東京大学予備門に入学。苦学しながら82年東京大学法学部を卒業。在学中、土方はイギリス留学を希望したが果たせず、東京大学助教となった88年から90年にかけて念願のミドルテンブルで法学修業し、バリスター(法廷弁護士)の資格を得た。留学中、土方は勉強の傍らイギリスのジェントルマンに倣って、マス釣りや狩猟にも親しみ、帰国後も趣味として大いに楽しんだという。英吉利法律学校では、売買法や流通証書法などを講義。  
1912年、菊池学長亡き後、その遺志を継いで学長となった奥田義人のもと英吉利法律学校以来の伝統であるイギリス法教育の改革に努め、カリキュラム編成と教科書や講師選定を自ら率先しておこない、また創立者として最後まで現役で教壇に立った。